

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和6年12月分）

【製造業】

○製造業は、10月の鉱工業生産指数は2.1%上昇となった。ヒアリングでは、大手自動車メーカーの生産停止分の振替が行われたことで、生産数が増加し、今期で最も業績が良かったとの声が聞かれた一方で、ダイキャスト業界全体で業績が良くないため、取引業者が自主廃業するケースが増えており、代わりの業者を探すのに苦慮しているとの声が聞かれた。

○地場産業は、10月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、食料品、家具、パルプ・紙で上昇した。ヒアリングでは、円高の時期に海外からの商品を少し多めにストックすることにより、為替の動きに対応しているとの声や、輸出量は前年並みの水準を維持しているが、国内出荷量は全体的に低迷しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、11月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比3.0%増加となった。ヒアリングでは、車両の代替は随時行っているが、メーカーの生産遅れ等もあり、計画通りには納車できていないとの声や、金利上昇を見越した駆け込み需要は、大型設備を導入する際の資材価格高騰等のコスト上昇と相殺し、あまり増加しないと思われるとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、11月の販売額は、全体で前年同月比0.8%増加となった。ヒアリングでは、食品を中心とした多品目の値上げにより、1人あたりの買上点数が減少傾向にあるとの声や、原材料の高騰もあり、店舗によっては事業継続への影響が懸念されるとの声が聞かれた。

【観光】

○宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前と同程度まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

○11月の制度融資実績は、金額で4ヶ月連続で減少となった。資金需要は特段大きな動きはないが、融資残高ベースでみると、緩やかに増加しているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、11月の有効求人倍率は1.54倍と2ヶ月連続で1.50倍を上回った。ヒアリングでは、人員不足への一時的な対応として派遣社員や技能実習生を充てている状況では、継続的な社員育成・社員教育の継承が行えないとの声や、無理に賃上げを行うと固定費の上昇となることから、業績に応じ賞与支給で調整し、時間給を最低賃金水準で支払っているメーカーが多いとの声や、正社員と、パートの給与の差がなくなっているため、パートであっても社員と同様の生産効率をあげられるよう、対応を考えているとの声が聞かれた。

【景気動向】

10月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.2ポイント上昇、11月の中小企業の景感指数は同7.0ポイント上昇となった。